

議事章程

2

和装本

79

959



三  
辯  
事  
章  
錄

大藏  
卷

册  
卷  
六  
第  
四  
頁  
正

明治六年四月刊行

# 議事章程

## 大藏省

議事章程題言

同會

議事

明治戊辰ノ春大政一新改令漸ク一ニ帰スルモ當時于戈未タ戢ラス憲典未タ立タス封建ノ故依ニ依リ列藩ノ治ヲ異ニス是時ニ當テ官省府藩縣ノ制ヲ設ケ各其吏務ヲ分掌セシメ且從前侯伯ノ名ヲ罷メ之ヲ藩知事トシテ其部事ヲ管セシム是ニ於テ郡縣端ヲ開キ制度緒ニ就キ紀綱漸ク綜理スル所アリテ民心稍方向ヲ得ルト云々然レ其體裁猶一時ニ具備セサルヲ以テ尔來屢廟議ヲ畫シ官

門 9  
969  
卷

序一

大藏省

省府縣ノ制置隨テ相釐革シテ竟ニ辛未ノ秋一タヒ廢藩  
ノ令下リテ封建全ク制ヲ解キ郡縣始テ治ヲ更ノ國力改  
權真ニ維一ノ基礎ヲ定メタリ然リト云凡多年日積ノ積  
弊勉テ芟除セサル可ラサルヲ以テ諸般ノ制度先ツ更革  
ヲ主トシ其施ス所多ク旧制ヲ廢弃シ新規ヲ創立スルニ  
急ニシテ未ク之ヲ調理スルニ違アラヌ是亦勢已ムヲ得サルニ  
出ツ然而テ時ニ緩急アリ事ニ秩序ヲカル可ラス既ニ其廢  
スヘキヲ廢シ弃ツヘキヲ弃テ以テ郡縣ノ体ヲ定ムレハ

亦能ク之ヲ修整回護シテ其保全ヲ勉メサル可ラス若  
シ尚輒ク釐革ヲ覓メテ徒ニ變易ヲ事トセハ百事竟ニ換  
散シテ法制統理ノ期ナキニ至ラン苟モ然ラハ嚮キノ勉  
カスル所ノ者悉ク之ヲ泡沫ニ附スルノミナラス其國憲  
タル者果シテ何レノ日カ確立スルヲ得可ケンヤ是レ實ニ  
深ク古今ニ考覈シテ將來ヲ審定セサル可ラサル所以ナ  
リ夫レ大藏ト地方ト均ク是政府ノ一部分タル固ヨリ言  
ヲ俟タス今大藏ノ地方ニ於ケル地方ノ大藏ニ於ケル分

形一體相與ニ連結シテ須臾モ相離ル可ラス然レトモ大  
藏ハ輦轂ノ下ニ在リテ親ク地方仔細ノ實況ヲ目撃スル  
アタハス故ニ其令スル所ノモノ審案熟議ニ出ルト云ト  
モ或ハ理論ニ馳セテ實務ニ適切ナラス或ハ過慮ニ涉リ  
テ施為ニ不便ナル者ナシトセス且ツ地方ノ庶務ニ從事  
スル其如何ニテ詳悉セサルヨリ命令布達動モスレハ相  
矛盾ンテ一條件ノ如キモ尚數回ノ往復ヲ煩ハシ無用ノ  
時日ヲ消スルニイタル地方ノ大藏ヲ視ルモ亦ソノ思考

ヲ亮知スル哉ハス凡ソ全國歲出入ノ多寡較量ヨリ楮幣  
ノ處置負債ノ辨償及税法ノ釐革等ニ至ルマテ其施設如  
何ナル順序ヲ以テテ會計ノ主本如何ナル定度アルヤヲ忖度  
セス其着目スル特ニ一管内ニ過キサルヨリ或ハ大藏ヲ思  
擬シテ之ヲ苛酷トシ其餘裕ナキヲ厭フテ互ニ無根ノ嫌疑  
ヲ抱キ竟ニ疎隔ノ患ヲ生ルニ至ル夫レ此ノ如シハ大藏ノ  
本源何レノ日カ開達シテ地方ノ支流何時カ暢通スルヲ得ヘ  
クニヤ是レ政府斯民ニ負クノ大ナルモノニシテ而モ官其

義務ヲ盡サルノ責ヲ免ル可ラス蓋シ今ノ地方タルヤ維  
新以降百度沿革ノ際ニ逢遭シテ多ク舊藩ノ遺制ニ浸潤  
ス内ハ以テ民風ヲ易ヘ土俗ヲ改ムルニ易カラス外ハ以テ  
布令ヲ奉シ督責ニ應スルニ難ニス加之百事蠹集繫累隨テ  
生ス其煩冗猥雜亦言フ可ラス曩ニ縣治條例及諸規則書  
ノ如キ漸ク之ヲ具載スト亦概子皆倉卒ノ際一時ノ考  
按ニ成ルモノニシテ其條款亦頗ル簡單ニ過ク故ニ之ヲ  
今日ニ處スル常ニ相齟齬抵觸シテ其規矩ニ照準スル

能ハス凡ソ事太ク簡單ナレハ更ニ條規ヲ設ケテ其具備  
ヲ求ム既ニ詳密ニ至レハ隨テ煩冗ノ弊ヲ生ス是ニ於テ又  
其界限ヲ定メテ之ヲ修整セサル可ラス是レ事物ノ常情ニシテ而モ  
易フヘカラサルノ公理タリ此際況ク古今ヲ參酌シ時勢ヲ審量  
シ之ヲ内ニ法リ之ヲ外ニ規リ空理ヲ去リ實踐ニ基キ以テ將來施  
政ノ軌範ヲ論定シ其叙次ヲ正シ節目ヲ明ニシ彼ノ縣治  
條例ニ増補シテ地方ノ一大典型ヲ設立シ俟テ地方從  
前費途ノ分界ヲ明析シテ其制限ヲ定メサル可ラス何ヲ

カ之ヲ制限ト云フ曰ク能ク其事務ノ細大ヲ分別シ其  
權限ト責任トヲ明ニシ大綱能ク理リテ小節拘留ノ  
患ナク且其財務ノ如キハ收入ノ租額ヲ明詳ニシ其費送  
ノ地方ニ屬スルハ概算令定シテ全ク之ヲ委子其公收スヘキ  
ハ悉ク之ヲ大藏ニ納メ其計算ヲ明瞭ニシテ濫雜汗漫ナカ  
ラシムル是ナリ是定ニ治民ノ主要理財ノ本幹ニシテ然  
モ大藏ノ夙夜黽勉之ヲ思テ止マサルモノニシテ地方ノ如  
キハ未タ全ク其意ヲ体スルヲ得ス是他ナシ曰藩ノ宿弊未タ

脱セス吏事多ク陋習ヲ改メス加之管轄ノ廢置令合相繼  
キ事務交渉紛冗ニシテ其為ス所或ハ中廢スルアルヨリ一歳  
ノ出入ニ於ルモ尚其計算ヲ明瞭ニスル能ハス何ソ全般ノ整  
理ヲ顧慮スルニ遑アラシヤ然リト云凡吏事熙ラサレハ治化洽カラス  
計算明ナラサレハ會計當ル可ラス苟モ職ニ此ニ在ル者豈其責ヲ追  
ルヲ得可シヤ是ヲ以テ毎歳其管内ノ施政ト歳入出ノ計算ヲ  
明詳ニシ課ヲ考シ狀ヲ具シ之カ簿冊ヲ製シテ之ヲ大藏ニ致ス大藏  
之ヲ集輯編纂シテ以テ全國ノ歳入出ヲ統計シ入ヲ稱リ出ヲ制

シ能ク收入ノ租額ヲ以テ九百ノ需用ニ供シテ其出納ヲ愆  
ラス而シテ其較計ノ如キハ瞭然タル簿冊ヲ作り週歲ノ入  
額ト費途トヲ詳明ニシテ之ヲ地方民人ニ公示レ敢テ一  
毫ノ疑ヲ容レサラシム若シ然ラサレハ其收ムル所其用ユ  
ル所ニ於テ各相嫌疑ナキ能ハス且其下民ノ如キハ施政  
ノ要旨ヲ了セシテ其貢スルモノハ目シテ之ヲ掠奪トシ  
政府ノ酷薄ヲ訶ヘ竟ニ之ヲ怨嗟スルニ至ルモ亦知ル可  
ス是乃チ民事財政ノ舉否ニ關涉スルモノニシテ實ニ大藏

地方ト共ニ其分掌ノ責ニ任スル所ナリ故ニ大ニ此會同  
ヲ興シ各其胸臆ヲ披キ心緒ヲ舒ヘ利弊ヲ討論シ得失ヲ  
高權シ法ノ煩ナルハ之ヲ刪リ事ノ麓ナルハ之ヲ密ニシ  
順序ヲ定メ權限ヲ詳ニシ各恪奉遵守スル所アリテ枓格  
支吾ノ患ナク獨四肢ノ首領ニ應スル如ク氣脈流暢和通  
シテ毫モ落塞停滯ナカラシメントス是固リ大藏ノ地方  
ニ企望スル所ニシテ地方ノ大藏ニ望ムモ亦應ニ之ニ出  
テサルヘシ然則此會同ヲ以テ民事九百ノ振興ヲ要シ將來施政



ノ脩整ヲ期スヘクシテ而シテ國力政權ノ確立スル之ニ依テ待ツ事  
ヲ得可シ因テ此ニ注意スヘキ大綱五事ヲ提要シテ通知ニ供スル左ノ如シ

第一 地方ノ縣治條例ニ於ル一日欠クヘカラサル緊要ノ  
典籍トス然レトモ其條款昔日匆々ノ豫定ニシテ  
今日更正セサル可ラサルモノ件々相望メリ因テ  
條ノ逐ヒ日ヲ叙テ参考商量シ之ヲ蒐輯大成シテ  
所務ノ標準トセンコトヲ要ス

第二 制規嚴肅ニ過レハ處事舒ル能ハス然リト去トモ

漫ニ羈束ヲ解キテ事定規ナケレハ渙然放散亦收  
拾ス可ラス現今地方經費ノ如キ細大之ヲ上操  
シテ頗ル拘束ニ過ク故ニ向後地方收入ノ租額  
ヨリ更ニ經緯ノ分界ヲ定メ經組ヲ納メ緯組ヲ留  
メ以テ其地方ノ費途ニ充テ其收散ノ界限ヲ畧定  
シテ相踰越悖犯スルコトナキヲ要ス

第三 各地方歳入出ノ計算詳カナラサル可ラス計算詳カ  
ナラサレハ大藏ノ會計明カナラス會計明ナラサレ

ハ量為ノ目途立ツ可ラス今夫レ九縣ノ計算詳カ  
ナリト云凡一縣ノ計算詳ナラサレハ之ヲ通算統  
計スルニ由ナシ今ヤ各縣廢置以來未タ数年ヲ  
經ス其近キハ未タ數月ヲ閱ヤス且従前ノ錯雜ニ  
際ス一朝整理ニ至ラサルハ亦已ムヲ得サルモノ  
ニシテ特ニ其替緩ヲ責ムヘカラスト云凡爾後  
猶此ノ如シハ大藏何ヲ以テ理財ノ要務ヲ達スル  
ヲ得ンヤ故ニ每縣一歲ノ入ヲ審調シ又其出

按算ノ期ヲ逐ヒ約ニ從テ之ヲ申牒シ以テ會計ノ  
根柢ヲ定メシ事ヲ要ス

第四

陋習ノ去リ開明ニ誘フハ地方ニ職タルモノ、要  
務ナリ然リト云凡能ク其先後ヲ審ニシ實理ニ基  
カスシテ偏ニ其形ヲ模レ其名ヲ銜ハ、其弊浮夸儼  
薄ニ陥リ却テ真ノ開化ヲ妨ケ民人ヲ傷害スルニ  
至ラン夫レ人民ノ富ハ即チ政府ノ富ニシテ政府  
ノ力ハ即チ人民ノ力ナリ能ク其國カヲ量リ民財

ヲ愛ニ實際ニ注目シ苟モ輕佻ニ涉ルヘカラス且  
甲縣ハ徒ニ輕進ヲトシ乙縣ハ却テ趑趄スル如  
キハ大ニ政治ノ鈞量ヲ失ヒ人民ノ願望ヲ來シ全  
國一致ノ力ヲ逞スルヲ得可ラス故ニ各縣一時ノ  
急功ヲ貪ラス他日ノ大成ヲ期シ相待テ齊ク其歩  
ヲ進メシトヲ要ス

第五

大藏ノ地方ニ於ル能ク言情ヲ洞通シ事態ヲ明瞭  
ニシ苟モ威迫制壓ノ弊アル可ラス地方ノ

大藏ニ於ル亦能ク其旨趣ヲ體認シテ其情實ヲ藏  
匿セス誠惇勉勵以テ其事ヲ奉スヘシ之ヲ要スル  
ニ全國理財ノ基礎ヲ立テ各地民治ノ功蹟ヲ奏ス  
ルハ固ヨリ協同戮力相待テ相離レサルノ致ス所  
ナリ故ニ彼此ノ際誓テ扞格踈絶ノ弊ナク各其本  
分ノ責任ヲ辱シメサラントヲ要ス

以上五款ハ此會同議事ニ於テ最モ注意スヘキノ大綱タ  
リ其會議ノ規條ニ至テハ別ニ本篇ニ於テ之ヲ説明スレ

ハ各其叙次ヲ詳悉シテ敢テ其規程ヲ愆ル勿レ

大藏卿代理

明治六年四月

大藏大輔井上馨謹誌

議事章程目次

- 第一節 會議制限ノ事
- 第二節 官員ノ事
- 第三節 議員ノ職分并權利ノ事
- 第四節 決議規則ノ事
- 第五節 定員ノ事
- 第六節 紀律ノ事
- 第七節 事務提起ノ事

大藏省

第八節 建言ヲ壓抑スル事

第九節 建議ヲ延期スル事

第十節 建言ヲ修正シ議案ヲ分割スル事

第十一節 增補ノ今案章節ヲ換位スル事

第十二節 建言者自己ノ改案或ハ修正ノ事

第十三節 修正ニ係リタル規則ノ事

第十四節 議案ノ旨趣ヲ改正スル事

第十五節 課程案ノ事

第十六節 律例案ノ事

第十七節 讀議案ノ事

第十八節 缺則案ノ事

第十九節 議事序次ノ事

第二十節 發言ノ方法

第二十一節 發言ノ主意

第二十二節 發言ノ度数

第二十三節 討論紀律ノ事

目次畢

第一節 會議制限ノ事

第一章

斯集會議事ハ專ラ大藏省關係ノ

租稅水利  
防土木出納

戶籍開拓諸  
會社其他

地方廳ニ於テ實際ニ施行スル事

務ヲ限り敢テ他ノ省事務ニ干涉スルヲ許

サス尤出費等ニ付キ干涉スルハ此限ニアラ

ス

第二章

大凡事ヲ議スル過去或ハ將來無用ニ屬シ又

歐米其他各國方今施行スル事柄トイヘトモ

今日吾國民ニ相當セサルヲ強テ之レヲ議  
スルヲアルベカラス

第三章

地方管内限リ施行スル事務ノ如キ或ヒハ聚  
會議事ノ如キモノト雖モ終ニ各縣施行方法  
區々百端煩冗ヲ生スルノ患ヲ恐ル故ニ其方  
法或ハ集會ノ趣意ト規則トヲ斯議場ニ持出  
シ其許可ヲ得テ一般ノ律法トナスヲ要スル  
ナリ

第四章

斯議事會ヲ創立スルニ付簡便ナル方法ヲ一  
定シ豫メ定メタル期日ニ其場所ニ議員ヲ集  
會セシメ議員ヲシテ席ニ着カシメ議事會ヲ  
設クルノ要ヲ説キ或ハ書記官其他要用ノ官  
員ヲ撰擧スル等議長ノ命ヲ受クヘシ

第五章

斯會議ニ於テ課目ヲ分カチ今課ノ官員ヲ位  
置スルヲ用ヒズ然リトイヘモ議場ノ事務ヲ  
論スルニハ未タ其本務ノ議事ニ及ハサル前

先ツコ、ニ至ルマテノ豫備事務ヲ明ラカニ  
シ逐次ニ本務ニ至ルヲハ紀事ノ順序ニシテ  
其便利ナルヲ固ヨリ言フ俟タサルナリ但シ  
總ヘテ豫備事務ナルモノ夫々本務ニ關係ス  
ルモノニシテ若シ初メニ之レヲ行ヒ置ケハ本  
務ヲ整調スルニ便捷ニシ萬事ヲ叙定スルノ  
一助タルヘシ故ニ其整調ノ事ハ大蔵省關  
係ノ各寮司或ハ地方官ニテモ其便利ニ隨ヒ

### 第六章

之レヲ議長ヨリ命スヘシ  
但事務多端ノ場合ニヨリテハ議場へ呼出  
シ整調ヲ命スルヲモアルヘシ  
總テ議事會ニ於テハ兼テ定メタル期限通り  
地方長次官ノ内必ス東京へ到着スヘシ尤不  
時集會ノ節ハ議長ヨリ報告セシ期限ヲ愆マ  
ル勿カレ總テ名代人ハ差出スベカラズ  
但本人出京ノ上病氣及ヒ事故等アリテ議



場ニ臨ムコト能ハザル時ハ名代人トシテ大  
屬以上ヲ撰任シ議事ノ始ル前以テ誰々ヲ  
名代人ニシタル由ヲ報告シ且其名代人ニ  
委任狀ヲ與フヘシ其故ハ相當ノ委任ヲ受  
ケタルモノニ非サレハ此議事會ニ臨ムコト  
ヲ許サズレバナリ其名代人ハ其委任狀ヲ  
議場ヘ持參シ議長ニ差出シ議長ノ許可ヲ  
請ケ議員ニ加ハルヘシ右委任狀ヲ與ヘ名

代人差出ス上ハ議場ニアリテハ其名代人  
ヲ即ハチ其本人同等ノ權利アル者ト見做  
ス故ニ決議後假令本人異論アルモ採用イ  
タスベカラズ猶議員簿ヲ製シ議事會及ヒ  
其他ノ用ニ備ヘ置ンカ為メナリ

### 第七章

議事會場ハ即チ議事ノ為メ設立シタルモノ  
ナレハ議事會ノ許可ナケレハ何人タリモ妄  
リニ立入ルヲ許サズ若シ人アリテ此場ニ入

リ退クヘシトノ命アリトモ従ハス猶不當ノ  
所業ヲ為スモノアレハ議事會ニ於テカヲ以  
テ其者ヲ制シテ可ナリ

第八章

凡ソ議事會ハ衆人集合シテ設クルモノナレ  
ハ其事業ニ付規則定律ヲ立テ之レヲ遵奉セ  
サルヲ得ス之ヲ守ラサレハ恐ラクハ創立功  
業ノ目的ヲ遂クルヲ能ハザルヘシ故ニ先ツ  
事ヲ議スルノ規則ヲ整定セン為メ茲ニ數條

ヲ設クルト雖モ一時完全ニ至ラサル者ナレ  
ハ總テ事ヲ議スルニ當リ或ハ其弊害ヲ防カ  
ン為メ或ハ一事務ニ付頗ル緊要ナル規則ヲ  
望ム等ノ場合或ハ從來定メシ規則ヲ變換セ  
ザルヲ得ザル事アレハ章程ヲ増減スルヲア  
ルベシ

第九章

議案ヲ議事會へ出サント欲スルモノハ書面  
ニ認メ之レヲ其議場へ差出スヘシ其節目ハ

議場ニ於テ辯論勝手タルヘシ

第十章

議場ニ於テ事ヲ議スルハ全ク事務上ニ付テ

討議説論スルコニテ決メ人身上ニ就イテ褒貶

黜陟及ヒ毀譽等ニ干涉スルコヲ禁ス

第十一章

事ヲ議スルノ間ニ當リテ若シ爭論相起ル時ハ

則チ議長ノ裁決ニ任カスヘシ本ト一人ノ私事ヲ議

スルニ非ス公事ヲ議スルノ議場ニ付議論中ハ

勿論裁決ノ後ト雖モ私怨ヲ挾ム等ノコアルベカラス

第二節 官員ノ事

第十二章

大藏卿ヲ以テ此議長ト定ム議長ハ一二ノ副

議長ヲ撰ビテクヘシ常ニ定メ置クモ其時ニ

臨ンテ定ムルモ妨ナカルヘシ此副議長ハ議

長議事會ニ臨マサルコアルカ或ハ自カラ説

ヲ出サンカタノニ議員ニ加ハリ其一員トナ

リテ議スル為メ議長ノ席ヲ去ルコアレハ其

時々副議長ヲ以テ假リニ議長ニ命スルコト

リ議長議員ト列座スル時ハ一般ノ議員ト殊  
ナルコナレ獨リ議長ハ常ニ議論ニ與カラサ  
ルベシ但シ總負ノ議論雙方ニ相別ル、時ニ  
限リ其決説ヲ出ヌコトヲ得ヘシ

第十三章

議長ノ職務ハ

- 第一 會議ノ時限ニ先ツ椅子ニ就キ令ヲ下  
シ議員ヲ列座セシメテ後チ議事ヲ始ム
- 第二 事務ノ序次ヲ布達ス

第三 諸議員ヨリ差出ス議案ヲ紹介シ之レ  
ヲ議事會ニ布達ス

第四 諸決案ノ布達シ投名ヲ以テ可否ヲ決  
ス

第五 討論中議員ヲ制シ決シテ紀律序次ヲ  
破ラシメス

第六 何ツレノ時ヲ論セズ議員ヲシテ紀律  
ヲ破リ禮儀ヲ犯スコトナカラシム自然不法ノ

徒ハ議場ヲ立去ラシムルノ權ヲ有ス

第七 總テ他ヨリノ音信報告ヲ紹介シ之レ

ヲ議事會ニ布達ス

第八 事宜ニ由リ議事會ノ決議等ニ其證印

ヲ施コス

第九 自カラ差圖スヘシト思ヘル時又ハ議

事會ヨリ諮問スル時ハ事務ノ方法ヲ指示ス

第十 一種格段ノ場合此會議ヲ閉閉マルノ

權ヲ有スヘレ

第十一 議事會ノ總轄ニシテ其決定セシ事

件ハ正院へ許可ヲ受クヘキ分ト大藏省ヨリ

布達スヘキ分トヲ區別シテ大藏省へ渡スヘ

レ

第十二 事件ノ可否ハ唯衆議ノ決ニ任スト

雖氏格段ノ場合ニ因テハ專決ノ權アルヘシ

第十三 會議事務ニ付キ其用ニ供スル為ノ

書記官ヲ任擢シ命スルノ權ヲ有ス

第十四章

議長ハ議案ヲ展讀スル時ニハ椅子ニ凭テス

ルヲ許ストイヘ其議案ヲ布達シ又ハ決案

ヲ發スル時ニハ必ス起立スヘシ

第十五章

議員ハ大藏省中各寮司ハ奏任官地方官ハ令

參事ノ内ヲ以テ一員宛テ議員ニ列スヘシ

第十六章

書記官ハ既ニ論定シタル決議ヲ日誌ニ書載

スヘシ各員發言ノ委曲及ヒ決セサル議案等

之レヲ記スルニ及ハス已ニ論定シタル決議

ハミヲ書載スヘシ尤時々都合ニヨリ發言討

論ノ委曲ヲ書載スルヲ要スレハ議長ニ命

ヲ受ケテ書載スルヲモアルヘシ

第十七章

書記官ハ議會ニ附屬スル諸書類日誌或ハ未

タ議セサル書類及ヒ決議ニ至ラザル書類等

議會ノ許可又ハ指令ナクンバ決テ他人ヲシ

テ之レヲ採リ去ラシムヘカラス

第三節 議員ノ職分并權利之事

第十八章

議員ノ議場ニ於テ事ヲ議スルノ際ニ當リテ  
各寮ノ專務官員ニ非ス又府縣知令參事モ地  
方ノ官員ニアラス唯一般地方ノ事務ヲ議定  
スルノ立法官ニシテ一般ノ議員ト見做スヘ  
シ故ニ一寮ニ關シ或ハ一縣ノモノ事ヲ主張  
スルコトアルヘカラス

第十九章

總テ議員中彼此ノ職分并ニ彼此ノ權利ハ先

ツ總議員ヲ同位同階ニシテ上下貴賤ノ別ナ  
キモノト見認ノ之ニ基イテ定ムルモノナリ  
苟モ議員ノ列ニ加ハルモノハ其欲スル所ノ  
議案ヲ議會ニ示シ其旨趣ヲ説明シ辯論ヲナ  
シ其採用ヲ主張シ議會ヲシテ之レヲ討論セ  
シノ之レヲ可否セシムヘキ權ヲ有スルナリ  
既ニ甲ノ議員ニカ、ル權利アレハ乙丙其他  
ノ議員ニ於テモ亦此權利アルベキハ勿論ナ

レハ乙丙誰レニテモ議案ヲ發スルモノ之レ  
アルハ甲ハ之レニ答ルノ職分トシテ行儀  
ヲ安正ニシ之レヲ發スルモノヲメ其權利ヲ  
達セシムベキナリ總テ議員ノ彼此ノ職分并  
ニ權利ハ各員ノ言語行儀ニアルナリ因テ  
言語行儀トモ合論スベシト雖モ言語ノ違ヒ  
ヲ以テ旨意ヲ害シ或ハ喻言ヲ以テ本論ヲ失  
スル等ノナラレハ議長之ヲ理解シ其命ヲ受

第二十章

クベキナリ

議事會ニ於テ總テ議員ノ禮儀ヲ遵奉スルハ  
第一唯議員各箇ノ職分ノヨコ止マテス議事  
會ノ事務ヲ整調スルニハ必ス之レナカルベ  
カラサル要件ナリ其條目ハ議員タルモノ誰  
ニテモ或ハ喋叱咳嗽吐唾ヲナレ或ハ他人ト  
談話私語ヲナシ或ハ他人ノ論ハ激言ヲ以テ  
答ハ遂ニ事務ノ議論ヨリ私怨ヲ結ヒ或ハ議



長ト發言議負トノ中間ヲ遮過レ或ハ議場中  
ヲ往返散步レ或ハ几上ノ簿冊書類ヲ取去リ  
之レヲ机側ニ誦讀スル等總テ斯ル行儀ヲ  
ナレ他人ノ障碍ヲ為ス一ハ一切嚴禁ナリ

第二十一章

議負ハ議場ヲ去レハ各寮地方官ノ職掌ヲ有  
スルハ勿論ナレハ近隣ノ縣或ヒハ遠隔ノ縣  
或ハ縁故私情或ヒハ平常ノ遺恨私意等ヲ以  
テ公事ヲ議スルニ付或ハ推論或ヒハ之レヲ

貶議スル等ノ所行アルベカラズ一議ノ為メ

一書一言モ事ノ是非ヲ説明スルニ但虚心平

氣ヲ主トスルヲ要ス事件ニ付如何ホト議論

ニ涉ルモ時限退散ノ後ハ敢テ之レヲ意トス

ル勿レ又議場ニ於テ論セシ一ヲ他ニ集會ヲ

ナシ議スル等ハ一切嚴禁トス

第二十二章

議負議場ニ昇リ着坐スレハ帽ヲ脱スルヲ禮  
トス出席時限ヲ誤マリ着席中故ナクシテ退

席スル等皆十禮節ヲ失フモノトス

第二十三章

着席ノ順序ハ發會ノ節議員ノ員數ニ番號抽

籤ノ順序ヲ以テ席ヲ定ムヘシ一旦席ヲ定ム

ル上ハ每會必ス其席ニ着坐スベシ

但名代人ハ本人ノ席ニ着坐スベシ

第二十四章

議事會ニ於テ都テ非禮非法ノ舉動ヲナスモ

ノアレハ其罪ヲ衆ニ告知スルハ通義ニシテ

殊ニ議長タルモノ、本務ナリ議長此ノ犯罪

ヲ告知スル片ハ犯罪議員ノ人名ヲ指シ議事

會一統ハ公告スルナリ斯ク議事會ニ對シテ

罪科ヲ犯セル旨ヲ申渡シタル議員ハ其坐ニ

於テ一應辨解シ然ルノチ退出スヘシ右議員

退出スレハ議長犯罪ノ次第ヲ説明シ議事會

一統ヲシテ其罪科ノ輕重淺深ヲ議セシム議

事會ハ犯罪セル議員退出ヲ請求スルモ或ヒハ

之ニ滞在スルヲ許シ之ニ及シテ自ラ起テ退出ヲ

請ハサルモ或ハ之ヲ要メ退出セシムルヲ  
ルベシ若又議負ヨリ犯罪ヲ訴フルニ當テハ議  
長右犯罪ヲ説明セシテ議負自カラ之ヲ演  
説スベシ自他ノ手續ハ上ニ異ナルトナシ

第二十五章

議員ハ其身ニ管係スル事件ニ付評議中ハ決  
メ議事會ニ出頭スベカラス若シ又議事會ノ  
寛待ニテ出頭スルモ右評議ニ付テ發言スベ  
カラス評議ノ事件其私事ニ管スルトモ或ハ

公事ニ涉ルトモ右議負ヲ議事會ニ於テ其評  
議アレハ直ニ一應之ヲ辨解シ退出シテ其事  
ノ決着ヲ俟ツベシ若又議負此ノ如キ評議  
ルニ關セバシテ抗然議事會ニ留在シテ發言  
スルハハ議事會ハ右發言ヲ拒ムベシ何トナ  
レハ何人ニテモ其身ノ訴訟ニ於テ自カラ其  
裁判人タランハ是レ禮節ニ反對スルノミナ  
ラス人間交際ノ大義ニ背ケハナリ

第二十六章

茲、ニ論スル如キ議事會ノ議負ニ加フベキ  
罰責ハ暫時ノ謹慎除名禁議及ヒ大藏卿ハ達  
シ大藏卿ヨリ正院へ申立テ免職等ナリ此他  
ノ謝罪求恕等アリテ議事會其罪ヲ断シテ此  
等ノ罰ヲ以テ處置スベシ

第二十七章

議事ハ衆議ノ決議ニ推アリテ一人ノ獨決ニ  
推ナケレハ一旦集會ニ於テ決セシ事務ハ縣  
治條例ニ書載シ律法トナスベシ

第四節 決議規則ノ事

第二十八章

議事ハ一ヶ年兩度四月一日ヨリ三十日間  
十月一日ヨリ三十日間ヲ以テ開議ノ定期  
トス尤大藏省ノ都合ニ依リ不時會議ヲ要需  
スルコトアレハ少クトモ三十日前集會ノ布達  
ヲナスヘシ

第二十九章

已ニ會期ヲ定ムル以上ハ後會ニ事ヲ議セン  
ト思フ者ハ常ニ區分ヲ爲シ豫メ其事ヲ調査

シ置クヘシ

第三十章

決議セシモノハ縣治條例エ書載スレハ律法  
トナルト雖モ正院工伺ノ上ニナクテハ果決  
スル能ハサル事件ハ一旦書載スルモ一定ノ律  
法ト見認ムル能ハサルハ勿論ナリ遂ニ許可  
ヲ得サルコトアレハ書載セシモノモ消却スル  
コトモアルヘシ大藏卿權利制限内ニ行ハル  
事件ハ議長即チ大藏卿ナレハ決議セシ事件

第三十一章

ハ律法ト一定セシモノト見做スヘシ

第三十一章

毎事件ヲ議シ其議決スレハ縣治條例ニ書載  
シ地方ノ律法ト一定スルモノナレハ租税ニ  
ツキ事ヲ議スレハ其事務ノミヲ議シ出納ノ  
事ニツキ議スレハ其事務ノミヲ議シ審判區  
別セサレハ混淆錯雜ノ患アルヘシ

第三十二章

此議事會ヨリ直ニ決議ヲ布達スル權利ヲ有  
セス議場ニ於テ決議セシ事件ハ之ヲ大藏省

第三十三章

ニ附シ同省ヨリ正院ノ許可ヲ得ヘキハ之ヲ  
正院エ出シ又大藏卿ノ獨決ニ屬スル者ハ同  
省ニテ區分シ夫々布達スルヲ常例トスレハ  
其布達ヲ奉受スルニ至リ始テ地方官職掌ト  
心得ヘシ尤其事ノ緩急ヲ量リ直ニ之ヲ管内  
ニ施行スルニ閉會歸聽ノ上施行スルニ地方  
官ノ適宜處分ニ任スヘシ  
以後大藏省ヨリ直ニ布達セシハ地方官ニ

於テ實際施行シ得ヘク或ヒハ施行シ得ヘカ  
ラサル等各請書ヲ大藏省エ差出スヘシ大藏  
卿ハ之レヲ點檢シテ自然否決スルモノ三分  
ノ二ナルキハ之ヲ後會ニ議スヘシ可決スル  
者三分ノ二ナルキハ之ヲ可ト見做ス故ニ自  
然一管下ニ於テ不都合アルニ之ヲ施行セサ  
ルヲ得ス尤實際施行ノ手段ヲ設ケスシテ妥  
ニ臆度ヲ以テ之ヲ可否スルキハ地方官ノ落

第三十四章

度タルヘシ其糾正ハ後會ノ節之ヲ議スヘシ  
縣治條例ニ書載シ一般律法トナル上ハ事ノ  
行ハルニト行ハレサルヲ論セス閉會ノ後ト  
雖モ大藏省地方官共ニ之ニ準據確守シ必ス  
自ラ之ヲ變換スルヲ許サス自然之ヲ變換  
セシモノハ大藏省地方官共後會ニ之ヲ糾正  
スヘシ

第三十五章

事故アリテ至急處分セサルヲ得サルコトアレ  
ハ大藏省ヨリ特決シテ達スルコトアルハ勿論  
ナリ又地方官ニ於テ次ノ集會ヲ待ツ能ハサ  
ルノ急務ハ大藏省ニ協議シ大藏卿ノ許可ヲ  
得テ處分スルコトアルヘシ

第三十六章

都テ斯集會ニ於テ決議ト云ハ其議員衆多ノ  
許可ヲ云ナリ只投名ノ多數ヲ以テ其權衡ヲ  
執リ集會ノ決議トナス故ニ先ツ會中ノ一員  
一議案ヲ出シ數多ノ許可ヲ得議長之ヲ決定

シテ之ヲ記録シ始テ律法ト為スヘシ是則縣  
 治條例ヲ編輯スルノ一歩ナリ或ル一議員ノ  
 立議案ニツキ其衆論之ヲ不可トスルモ若シ  
 モ議長其議論ヲ實際ニ要用ト思フアレハ  
 自カラ議員トナリテ其説ヲ理解スルコトアルヘシ  
 第三十七章  
 總ヘテ從來大藏省ヨリ布達セシ事件ハ即チ  
 正院ノ許可ヲ經テ布達セシモノト大藏卿權  
 利制限内ニテ布達セシモノトヲ區分シ租稅

戶籍出納土木其他ノ事件ヲ分類シ大藏省ニ於  
 テ之ヲ編輯シ而シテ之ヲ縣治條例ニ掲載スヘシ  
 第三十八章  
 右等ノ類ヲ編輯スルニ付警ヘハ一ノ布達ア  
 リテ後ニ至リテ之ヲ變更セシモノアレハ即

チ前ニ布達セシモノハ消除セシモノト認メ  
 テ可ナリ又箇條ヲ以テ布達セシ部類ノ中何ケ  
 条ヲ變シテ此ノ箇條ニ換ユル等ノ類モ亦之ニ準ス  
 第三十九章  
 地方廳ニ於テ土地ノ厚薄人民ノ貧富ニ依テ



從來行ハレサルコトアレハ此度ノ會議ニ論ス  
ルモ可ナリ又閉會ノ後行ナハレサルコトアレ  
ハ其行ナハレサル所以ヲ書載シテ之ヲ大藏  
省へ出スカ又事不急ニ屬スルモノハ此  
ノ次會ニ持出シ改正ヲ乞フトモ妨ケ  
ナカルヘシ此會ニ於テ決議ノ上正  
院ノ許可ヲ得シモノ或ヒハ大藏卿ノ權内ニ  
テ布達セシモノ等ハ即ハチ律法トナリテ縣

第四十章

治條例ノ章程ニ載スヘキモノナリ

第四十章

總へテ書載セシ縣治條例ナルモノハ閉會ノ  
後大藏省へ托シ刷板シ直ニ一部ツ、大藏省  
ヨリ地方官へ配達スヘシ

第四十一章

縣治條例ナルモノハ唯地方ノ事務ニ就イテ  
論決シ書載スルモノナレハ全ク大藏省事務  
ニ關係スルモノト混淆セサル様ニ注意スヘ  
シ

第五節 定員ノ事

第四十二章

總テ議場ノ集會ニハ必ス議員ノ定員ヲ設ケ  
若シ此定員ニ滿タサルハ一切議事ヲ行フ  
ベカラス定員ヲ設クル所以ハ一ニハ以テ議  
員ノ邪曲ヲ防キニニハ以テ決議ノ粗暴ヲ抑  
ヘ三ニハ以テ小数ニテ議ヲ決シ危疑ヲ生ス  
ル弊害ヲ醸サミルヲ要スレハナリ

第四十三章

定員ハ地方官員ト各寮司官員ヲ合算シテ三

第四十四章

分ノニヲ缺クコトアレハ議長議事ヲ發ラクヘ  
カラス其人員三分ノ一缺席スルニ三分  
ノニヲ以テ決議セシ事ニ付テハ異論  
ヲ建言スルニ此開議中ハ之ヲ論スル  
コトヲ得ス尤後會ニ持出スコトハ別段  
ナリ  
一般ノ規則トシテ定員未タ席ニ出サ  
ルコトハ會議ノ事務ヲ行フベカラス又會

議ノ時退席セシモノアリテ議負其定負ニ  
缺クル寸ハ會議ノ事務ヲ延引スヘシ故ニ  
議長ハ已ニ定負ノ在席セルヲ見定メサレ  
ハ敢テ其椅子ニ就クヘカラス又已ニ事務ヲ  
始メシ後ニ至リ定負ニ缺クルヲ知ラバ議  
長ハ直ニ議負ヲ指算シ實ニ之レニ缺クル寸  
ハ何時ニテモ速カニ延會ヲ布達スヘシ

第六節 紀律ノ事

第四十五章

前ニ論セシ如ク議事會ニハ其確定シタル  
制限律例序次アルヲニテ若シ此律例序次ナ  
クシハ議事會ヲ設クルトイヘ其目的ヲ達  
スヲ能ハザルナリ是ヲ以苟シクモ議事會ヲ  
設クレハ必ス右ノ律例序次ハ恰モ之ト一體  
ノモノ、如ク須臾モ離ルヘカラサルモノナ  
リ且ツ右ノ如ク確定シタル律例外ノ規則ハ  
議事會ニテ開議ノ前豫メ之レヲ定ムルニ又

ハ集會中差掛リ種々ノ事件ニ付夫々條例ヲ定メルル其時宜ニ依テ勝手ナルヘシ

第四十六章

議事會ニテ開議前々其律例ヲ定ムルトキハ向後之レヲ改正シ之レヲ弃指スルニハ若斯ク々ノ法ヲ以テスヘシト其方法ヲモ同時ニ定メ之ヲ記録ヘ留メ置クベキナリサレバ若シ斯ク改正弃指等ノ方法ヲ定メザレバ何時ニテモ議事會ニテ改正弃指兩件ニ付議案ヲ

發シ通例ノ如ク之ヲ決スルコトヲ得ルナリサレバ但一事件ニ関シ暫時ノ間其律例ヲ差定メント欲スル寸若シ豫メ定メタル規則ナケレハ總會ノ同意ノ上ナラズンハ之レヲ行フヘカラサルナリ

第四十七章

議事會ニテ或ル規則ヲ定メ未タ之レヲ廢セサルニ之レヲ破リ之レヲ蔑ニスルコトアレハ誰負ニテモ直チニ議長之レニ命シテ遵奉セ

第四十八章

シムヘシ自然改正ニ要用ト一決スレハ此時  
議長ハ速ヤカニ之レヲ施行スル手續ヲ以テ  
改正弃指シ其換ユル所ノ章程ヲ決定スヘシ  
議員中醉態ノ者アレハ議席ヘ列スルヲ  
禁ス若シ粗暴ノ舉動或ハ醉眠等ヲ認トムル  
トアレハ退場セシムルヲアルヘシ

第七節 事務提起ノ事

第四十九章

議事會ノ事務取扱ヒ手續ハ先ツ議案ヲ以テ

第五十章

提起スルヲ通常ナリ其ノ議案ヲ差出スノ方  
法ハ議員自己ノ議案ヲ差出スモノアリ  
或ハ他人ノ建言ヲ取次クモノアリ  
議事會ヘ差出ス建言ニ二類アリ即ハ  
々第一類ハ唯事實ヲ報知スルモノナリ第二  
類ハ一事件ニ付議事會ノ決議ノ處分ヲ  
請求スルモノニシテ人民一般ニ關スルモ  
ノアリ或ヒハ一人一己ノ上ニ止マルモノ

アリ

第五十一章 第二類ハ後來議事會ノ處分ノ基例トナル

モノナレハ宜シク之レヲ揭示スヘシ

第五十二章 議員ノ建議ハ向來議事會之レヲ採

用スル寸ハ其命令決議 議長ノ命ヲ以テ  
新決スルモノ

或ヒハ投票決議 議員衆多ノ許可ニ  
テ新決スルモノ 等トナ

ルヘキモノナレハ書記官ヲシテ之ヲ區分セ

シムベシ 此等ノ議案ハ其ノ事件何タルヲ論  
セス議事會ノ採用ヲ得ルノ日マテハ通

第五十三章

例之レヲ名ツケテ議案ト云フ然リ而メ其決

議トナレハ各其ノ通義ノ名稱ヲ得ルモノ也

議員ハ願案等ヲ差出シ或ハ議案ヲ發シ又ハ

之レヲ賛成シ或ハ帝ニ辨説シ并ニ議事會

ニ對シテ討議スル寸ニ當テハ先ツ之レカ為

メニ須カラク其位置 發議ノ權利ヲ云フ  
是レ議事會ノ特語 ヲ得

第五十四章 故ニ議員ソノ位置ヲ得ントスルニハ其ノ坐

ニ起立シ議長ニ對シ直ヲニ官稱ヲ呼ニテ發

言スヘシ左スレハ議長ハ右議員ノ姓名ヲ呼  
フナリ是ニ於テ議員初メテ發議スヘシ

第五十五章

若シ又二人以上ノ議員全ク同時或ヒハ殆ン

ト一同ニ其坐ニ起立シテ議長ニ對シ發言ス

ル寸ハ議長ハ第一ニ其ノ聲ヲ聞キタル議員

ニ位置ヲ與フヘシ議員此ノ議長ノ裁判ヲ不  
當ト考フル寸ハ其考ニテ

ハ何某第一ニ發論スヘキヤニ付議事

第五十六章

會一統ノ存意ヲ求トムルヲ得ヘシ  
斯、ル場合ニ於テハ議長ノ呼名シタル議員

ノ為メニ先ツ決案ヲ發スヘシ而メ此決案否

決スレハ此時右ノ議員ニ次ヒテ位置ヲ要セ

シ議員ノ為ニ決案ヲ發スルナリ

第五十七章

上ニ論スル如キ他人ノ建言ニ付其事件ヲ處

分スルノ方法ハ右願案ノ採用ヲ得ラルベキ

人ヲシテ直チニ辨解セシムル能ハザレハ此

取次人ヲ見做シテ名代人ト認ムベシ

第五十八章

願案ヲ取次ク議員ハ其陳述セル事實ヲ兼テ

辨知シアルヲ要ス是レ願案ヲ議事會へ差出  
スニ當リテ其事實ヲ演説シ又ハ疑問ヲ受ク  
ル時ハ同人ノ考ニテハ右願案ハ正當ノ事ト  
認トメ議事會へ對シテ不敬ナル事ヲ載スベ  
カラズ

第五十九章

右議員ハ自分建言或ヒハ他人ノ願案斯クノ  
如ク預備覺悟シテ其手ニ願案ヲ捧ケ其坐  
ニ起立シ議事會へ一願案ヲ差出シ度由ヲ告

ケ其ノ書ヲ議長へ渡スヘシ議長展讀シ後當  
人其委曲ヲ演説センコトヲ欲スレハ先其由ヲ告ケ  
テ發言スヘシ然レテ其議決スレハ之レヲ大藏  
省へ付シ大藏省ハ其手續キヲ為スナリ右願案  
ハ點檢思考ニ供スル為メ案上ニ差置クコトアリ  
第六十章 議案ハ書附ニテ差出スヘシ否ヲサレハ議長  
其承引スレヲ欲シ自カラ之レヲ筆記スルノ  
勞ニ任スレハ之レヲ承引シテ可ナリ又右議



案其主意ハ採用スルニ足り其文體ヲ否トス  
ルヲアレハ其差出セシ議員へ議長ヨリ改案  
ヲ命スルヲアリ

第六十一章

改正案ハ屬案ニシテ其改正添語ナレハ出格  
ヲ以テ此規則ニ適應スヘシ而シテ其原案ノ如  
ク認トムヘシ

第六十二章

議事會ニ於テハ既ニ一議案アレハ他ノ議案  
ヲ承引ヤサルナリ然レハ當時評議事件ニ付

其建言以前ノ議案ニ卓越スルモノハ之レニ  
替ハツテ評議判決ヲ得ヘキモノナリ

第八節 建言ヲ壓抑スル事

第六十三章

譬へハ茲、ニ一ノ議案アリテ議會ニ於イテ  
其趣意ヲ無益或ヒハ不便ナリト見込ム寸ハ  
一時之レヲ抑ユルカ或ハ不定延期ノ建言ヲ  
以テ全ク之レヲ抑ユルカナルヘシ

第六十四章

上ニ云フ抑ユルカ或ハ延期スルハ事實ニ適

セサルヲ或ハ方今政府ノ都合ニ依テ施行ア  
ルヲ或ヒハ施行セントスル等ニテ一般公平  
ノミヲ主張スル能ハザルヲ又歐米ノ方法ヲ  
準據シ道理ノミヲ主張シ實際ニ行ナハレサ  
ル等ノ一ハ之レヲ右ニ方法ニテ處分シ其翌  
日ハ其草案ハ差返スヘシ其時ニ當テ唯已レ  
ノ主意ヲ擴張スル為メ暴ニ議論スルヲアル  
トカラス

第九節 建議ヲ延期スル事

第六十五章

若シ議事會ニ於テ一ノ建議アリタル時直チニ  
之レヲ採用セズト雖モ之ヲ採用センコトヲ思  
ヒ之レヲ熟考セント欲スルトキハ只其書  
案ヲ受ケ置キ當日議セサルカ或ハ後會ニ附  
スルカヲ議長預カリ置クトモ又當人一返シ  
置クトモ其命ニ任カスヘシ

第六十六章

一ノ建議アリタル寸各議員ノ當時會得シ居

ルヨリモ猶一層ノ細説ヲ得ント思ヒ又ハ熟考  
ト審察トヲ要スル寸ハ其議ノ為メニ設ラル、後  
會マテ其僉議ヲ延シ各寮及ヒ各地方官（議長  
ヨリシテ後會マテ事實取調ヲ命スヘキナリ  
若シ議場ニ於テ或ル特別ノ議案出テタリトモ差  
向キ論セズンバアルベカラサル事件アル寸  
ハ差向ノ議ノ付クマテ其案ハ姑ラク机  
上ニ差置クコトアルヘシ則ハ子此ノ如ク

第六十七章

ニシテ差向ノ議相濟ンテ議會ノ都合宜シ  
キ寸ニハ差置キタル議案ヲ取上ケテ再タヒ  
議論ニ掛ヘキコトス

第六十八章

一議案ノ初メテ出タル寸ハ缺則多キヲ常ト  
セリ故ニ是ヲ全成ナラシムルニハ許多ノ注  
意ト審察トヲ要ス因テ之レヲ大蔵省各寮或  
ヒハ地方官へ取調ヘシムルコトヲ適當トス其  
全成セシ上ニテ之ヲ其議へ掛クルコトアルヘシ

第六十九章

取調へヲ受クル人ハ其趣意ヲ受クル上ハ議事ノ只一部分ヲ以テ一分課ニ全附セシモノ同一ニテ充分ノ見込ヲ立ツヘキヲ勿論ナリ令状ヲ以テ命スル整調ハ一段詳細ナル告知ヲ得ル方法ナルノミナラス期日ナレニ議事ノ考案ヲ延ハス手段トシテ用ヒラル、ナリ

第七十章

第十節 建言ヲ修正シ議案ヲ分割スル事

第七十一章

或ル建言ヲ議會ニ於テ其体裁ヲ好マズ或ハ其

箇條ヲ好マズ或ハ之ヲ増補セント欲スル時ニ當リテ修正ノ分割方法ニ因リ或ハ其他ノ手段ニ因リ本案ノ大主意ヲ失ハズシテ適當ノ体裁ニ取直シ其箇條々々ヲ分明ニ取調ヘルヲ要スル也

第七十二章

茲ニ一ノ議案ノ中チニ互ニ相関セザル二條或ハ三條ノ主意ヲ含蓄シ而メ其各主意ハ固ヨリ分割セラルベキモノナル時ハ假令ヒ其

中ノ只幾條ヲノミ採用スベクシテ盡ク各主意ヲ採用セサル時ト雖モ其本案ヲ數條ノ議案ニ分割シ議事會ニ因テ一條ツ、ニ論定セラル、コヲ好シトス是則修正ノ最簡便ナル一法トナスヘシ

第七十三章

故ニ假令ヒ一議案ナリトテモ如此ク引分ケラレタル時ハ則チ數條ノ議案トナリテ各條自立スルガ故ニ區々ニ論辨セラルベキナリ

第七十四章

若夫レ此クノ如クニシテ逐決ヲ經ル時ハ若干ノ部分ヲ削去テ修正セント云フ建言ノ時ト事實ニ於テ異ナラズトス  
議案ヲ分割セント云建言ヲ為ス者ハ自カラ分割ノ目途ヲ立テ其建言中ニ其方法ヲ分明ニ為スヘシ而メ又此建言モ亦都合ノ修正分割アルキハ同ク修正セラルベキナリ

第七十五章

假令ヒ数條ノ趣意錯雜セシ議案ナリ  
トモ其趣意各條ニ分割セラルベキモノ又ハ一趣意一條ノ議  
案等出ル時ハ都テ右等錯雜ノ議案  
ニハ通常ノ方法ヲ以テ之ニ修正ノ建  
言ヲ為シ或ハ上ニ示セシ方法ニ因  
テ分割ノ建言ヲ為シ其趣意ノ錯  
雜ヲ修正スルヲ適當ナリトス

第七十六章

大概議事會ニ於テハ議員ノ望ニ隨

テ錯雜ノ議案若シ分カタクハ幾部分ニ  
モ分ツト云フ規則アリ則然ル時ノ注意ハ第  
一ニ此議案ノ趣意ハ分タルベキモ  
ノナルカラ思量スルヲ第二ニハ幾  
許ノ部分ニ分タルベキカラ裁判ス  
ルヲナリ則之ヲ議長ノ職務トス

第七十七章

一議案中挿入ノ文ヲ書込ムハ恰モ  
数語ヲ増加シテ修正ヲ為ス等ニ異ラ

州藏  
不併レ或ハ数語ヲ書入ル、トハ議案修正  
トハ其趣意自カラ異ナルヲ以會議前  
字句ヲ調理スベシ

第七十八章

譬ヘハ某日マデ延引ヲ為スベキヤ整調  
何日ナルベキヤ命ゼラルベキ罰金ノ高ハ幾許  
禁錮ノ日數ハ幾日借債返濟ノ日限ハ某日等  
ノ如ク大ハ小ヲ含ム事柄ニ於テハ極度ノ建  
言ヲ發端ニシテ大ヨリ小ニ及ボシ遠ヨ

八十年  
リ近ニ及ボシテ終ニ議事會ノ發言決議ニ至  
テ止ムベシ借又利分ノ割合租税ノ高遷延セ  
シ議場ノ集會ヲ某日ニ閉ツベキヤ某日ニ於  
テ此次ノ集會ヲ始ムベキヤ等ノ如ク小ハ大  
ヲ含ム事柄ニ於テハ發端ノ建言ヲ極度ヨリ  
始メ小ヨリシテ大ニ及ボシ近ヨリシテ遠ニ  
及ボシ終ニ議會ノ發言決議ヲ得テ止ムヘキ  
トトス

第十一節 増補ノ分案章節ヲ换位スル事

第七十九章

茲、ニニタ通りノ議案アリ相合シテ一條ノ  
趣意ナルベキモノナル時ハ修正ニ因テ一通  
リノ議案ニ取直スルヲ要スベシ但議會ニ於  
テ此事ヲ然リトセハ議長ハ此兩案ヲ書記官  
ニ命シテ一條ノ議案ト爲サシムベシ  
又之レニ相反シテ一通ノ議案ノ趣意ヲ二條  
ニ分ツルヲ適當トスル時ハ修正法ニ隨テ其

第八十章

内ノ或部ヲ抜キ別ニ新案ヲ製スベキ也

但此事モ上ニ示セルト同様ノ手段ナリ

第八十一章

若又一章一節ノ位置ヲ以テ不都合トナシ之  
レヲ变换セント思フ時ハ孰レヨリシテ何章  
何節ヲ刪去シ其處へ何章何節ヲ挿入セント  
云フコトヲ議論ニ掛ケテ定ムベキ也

第十二節 建言者自己ノ改案或ハ修正ノ事

第八十二章

時トシテハ議案ノ本人之レヲ改案セント欲シ



州藏

或ハ修正セント望ムコトアリ然ル時ハ其事ヲ  
 先ツ議長ヨリ衆議ニ掛ケタル後許サルベキ  
 コトナリトス但斯ノ事ハ或部ヲ刑リ其處エ何  
 ヲヤヲ變換セントテ議案ヲ引戻ス處置ニ異ナラズ  
 一ノ議案既ニ規則通りニ取扱ハレ衆論既ニ  
 之ヲ補助シ一旦議論ニ掛リ居ルモノハ議會  
 ノ許シヲ受ズシテ謾リニ取戻スコトヲ得ベカ  
 ラズ只衆議ノ承諾ニ因テノミ許サルベキコ

第八十三章

トナリ若シ此事ヲ遂ントナラバ其議案主ハ  
 改案スル可否ノ議論ヲ經タル後議事會ノ免  
 許ヲ得ベキモノトス

第八十四章

修正規則通りニ議セラレテ衆論既ニ之ヲ補  
 助シ一定ノ議案トナリタル時ハ其本案ノ建  
 言者ハ議事會兼知ノ上為サレタル其修正ニ  
 同意兼知ノ徴トシテ修正ノ文字ヲ書載シ議  
 長押印スベキナリ

平六

第十三節 修正ニ係リタル規則ノ事

第八十五章

修正セラルベキ議案ヲ修正スル方法ニ三種  
 アリ或ハ或ル語ヲ増加スルニ因リ或ハ或  
 ル語ヲ削除スルニ因リ或ハ或ル語ヲ削リ  
 他語ヲ加フルニ因テナリ是等修正ノ法或  
 ハ共ニ照準セラルベキ総規則ニ隨フモノナ  
 レバ豫メ之ヲ示サザルベカラズ  
 或ハ或ル語ヲ削去ルニ因リ或ハ或語ヲ添

第八十六章

加スルニ因リ或ハ或ル語ヲ加ヘ  
 且ツ或ル語ヲ削ラントノ第一修正  
 ヲ第二修正スルハ得ヘキナリ併  
 レ第二修正ヲ又修正スルハ得ヘ  
 カラサルナリ若シ修正ノ修正ヲ修  
 正スル片ハ語ニ語ヲ積ミ論ニ論ヲ  
 重子徒ニ煩冗ニ渉ルヲ以テ此事ヲ  
 禁シ只修正ヲ修正スルマテヲ以テ

界限ト定メタリ

第八十七章

發言へ議事會ノ同意ヲ得ザル時ハ

何事タリト一期集會中其事ヲ再ヒ

去出スル能ハサルナリ

第八十八章

故ニ若シ(ハ)ヲ加ヘテ(ハ)ヲ修正セ

ント去出サレ其修正ヲ否ナマレタ

ル時ハ爾後再タヒ(ハ)ヲ入ル、<sub>1</sub>ヲ

得ヘカラス或ハ若シ(ハ)ヲ除キ(ハ)ヲ

修正セント去出サレ其通り行ハレタ

ル時ハ爾後(ハ)ヲ回復セント去<sub>1</sub>ハ

能ハザルナリ何ナレバ(ハ)ヲ入ント去

フ<sub>1</sub>モ又(ハ)ヲ除カント去<sub>1</sub>モ議會

ノ發言ニ依テ一旦拒マレタルカ故ナ

リ

第八十九章

建言書中更ニ増加ヲ為サント欲スルモ

一旦議事ニ掛リシ上ハ之ヲ取戻スル能

ハサルヘシ自然増加セサルヲ得サル  
アラハ別段ニ建言書ヲ差出スヘシ

第九十章 修正案ノ決議ヲ諮問スルノ方法ハ第

一ニ改正セシ為メ發シタル全行ヲ讀ミ  
上ゲ次ニ塗抹セシ為ニ發シタル全行ヲ  
讀ミ上ゲ其次ニ採用セシ為メニ發シタル  
全行ヲ讀ミ上ゲ最終ニ至テハ塗抹採用  
シテ修正シタル上ノ全行ヲ讀ミ上クハ

シ

第十四節 議案ノ旨趣ヲ改正スル事

第九十章 一建議ノ旨趣ヲ改正シ之レヲ詳解セハ其

眼目タル所ヲ尚ホ能ク活用セシメ或ヒハ又  
其主張スル所ノ意ヲ益瞭然タラシムルヲ  
要用トスル時ハ議長ハ其改正スヘキ理ヲ説  
明シテ之レヲ整調ニ付スヘシ

第九十二章 右旨趣ヲ改正セシ後之レヲ議會ニ掛シ上種々異

論ヲ生スルヲアレハ或ハ後會マテ之ヲ延引スル  
カ事柄ニ依テハ之レヲ排斥スルヲアルヘシ

第九十三章

茲、ニ一事件ニ付既ニ事決セントスル時或  
ル議員一種ノ議案アリテ此ノ議決ヨリ此一  
種ノ方法ヲ自カラ是ト考フルヲアリ此決議  
ニ付此クノ如ク一二ノ見込ミアル由ヲ議長  
ヘ申出ス時ハ議長ハ決議ヲ止ノ其議案ヲ  
展讀シ必ス超越シタルカラ議ニ掛ケ其

議案ヲ至當ト思フ人多キ寸ハ他ノ議案ヲ差  
置キ議事會之レヲ主トシテ議スヘシ併前議  
ハ未タ此決極ニ至ラサル寸ハ廢却セシモノ  
ト看做スヘカラス議中後出ノ事事實ニ故障  
アル寸ハ前議ヲ主トスルヲモアルヘシ

第十五節 課程案ノ事

第九十四章

議事會ヨリ令ラ下シ一議案ヲ何日ニ議スル  
ト定ムル寸ハ其議案ヲ名ツケテ課程案ト云

ナリ又今日或ハ何日會議若干ノ議案ヲ同日ニ  
議セントテ定ムルアリ則ハチ此等ノ議案ヲ  
モ課程案ト呼ブナリ

第九十五章

斯クノ如ク何日ト日ヲ期ノ議スル所ノ一  
議案ハ其日ニ當テ特權案ニシテ此特別ナル場  
合ニ於テハ他ノ事務ヲ執行スルヲ差止ムル  
ナリ故ニ格段ナル一議案ヲ議セン為メ定メ  
シ當日ニ至テ偶發スル所ノ何體ノ議案モ總

第九十六章

ヘテ差置先ッ此案<sup>課程案</sup>ヲ決議スヘシ若シ又偶  
發スルモノヲ退ソケス之レヲ議スルオハ終日  
其議終ハラザルモ圖リ難ク且ツ主トスル所  
ノ課程案ヲ遂ニ議スルヲ能ハザレバナリ  
然リト由凡若シ茲ノニ課程タル議案一案以  
上ナルオハ其中ニテ先キニ議スルモノハ一  
般ニ順序ヲ以テスヘシ而メ議事會課程案ヲ  
議スル寸ニ當ツテハ其先後ノ順序ヲ以テ讀

上ケ其次序ニ從テ之レヲ議スヘシ但シ第一ニ出ルモノハ第一ニ議スルノ權利アルト知ルヘシ

### 第九十七章

茲、ニ若干ノ議案アリテ之レヲ課程案トナサン為メ發シタル議案可ニ決スル寸當時ノ議場ニアル所ノ本案ハ議事會ヨリ退クルト恰カモ延會案ニ依テ間然サレタル如クニメ次會ニ於テ議事會ノ一事務トナルトナシ然

レ凡通例ノ手續ヲ經テ之レヲ再發スルニ於テハ議事會之レヲ議スルト前ノ如シ

### 第九十八章

順序ヲ以テ議シ或ハ課程議事ノ外至急議定セザルヲ得ザル事務アルオハ其由ヲ議長ニ説明シ議長至急事ヲ決スルヲ要用ト思フオハ其由ヲ議員ヘ布達シ他ノ議事ヲ差止ムヘシ

### 第十六節 律例案ノ事

### 第九十九章

議事會ノ議長其事務中ハ總ヘテ所管ノ議員中律例外

ノアルオハ之レヲ糾正シテ其律例ヲ行ハセシメンコトヲ務ムルハ  
其職掌ナリ其令ヲ破リ或セハ律例ヲ犯スコト判然タルニ於  
テハ猶豫ナク其律例ヲ遵奉セシムヘシ又議貞律例外ノ  
事ヲ覺知スルトキハ議長ト共ニ其律例ヲ遵奉セシメン  
コトヲ推論スルハ其權利ナリ

第百章

判然律例ヲ犯スコトアリテ遂セニ議貞中ヨリ之レヲ遵奉  
センコトヲ推論スルニ及セ右律例破壊スルコトアルカノ実否  
ヲ糾正スル為メニ數回議案ノ發スルアルヘシ而メ此等ノ議

案發スルコトハ紀律ヲ遵奉セシメン為メ發生スルノ一議ニ  
付之レヲ決議セサルヲ得ス右体ノ議案ヲハ名ツケテ律例  
案ト云フナリ

第百一章

議事會ニ於テ事務執行中右体ノ議案差起ルコトハ其因テ起  
コル所ノ議案ヲ議スルコトハ止ムヲ得ス之レヲ決議スルマテ本務ヲ  
差置カサルヲ得ズ而其決議ニ至ツテハ本務ヲ議スルコトニ復スルナリ

第百二章

若シ律例案發スルコトハ他ノ議案ノ手續ノ如ク議長之レヲ告ケ  
議事會ノ決議ニ非ラサレハ之レヲ律例中ニ書載スルヲ得サルナリ



第十七節 讀議案ノコ

第百三章

議事會ニ於テ一度議長讀上ケ或ヒハ決議セ  
ン為メ議場ニ發シタル案書等ハ議員ハ各其  
可否ヲ論セン為或ヒハ可否ヲ決セン為メ發  
言スル前一タヒ之レヲ聽聞ノ權アルハ判然  
論ヲ待タズシテ一般ノ規則ナリ故ニ議場ニ  
於テ議スベキ一議案ニ關係シタル案書等ヲ  
此規則ニ依テ再應聽聞センコトヲ要スルニ於

第百四章

第百四章

テハ議長ノ命ニ從ヒ議場ノ一事務トシテ書  
記官之レヲ讀上クルヲ定例トス  
右規則ニ從テ讀ミ得ル所ノ案書ノ外ハ如何  
様ノ書付又タハ簿冊ニテモ之レヲ讀マン為  
メ一議案ヲ發シテ議事會ノ許可ヲ得サレハ  
議員中誰レニテモ自カラ之レヲ讀ムノ權ナシ  
或ヒハ又他人ノ讀ミ上ケヲ聽聞スルノ權ナ  
カルヘシ斯ル規則ヲ確定セサレハ逸々書

案ヲ讀ムトヨリ大ニ時間ヲ費シ或ヒハ又事  
務ニ障碍スルノ故ヲ以テ止ムヲ得ズ其規則  
ノ定限ヲ立テ以テ其煩ヲ防クヲ要用トスサ  
レモ又議負ハ其議案ニ付キ他ノ可否ヲ發言  
スルモノナレハ其旨趣ヲ可成丈能ク知ラシ  
ムルヲ緊要トスルナリ

第百五章

故ニ一議負議場ニ於ケル案書簿冊或ハ決議

書等

上ニ云フ所ノ規則ニ  
因テ讀ムヘキ者ノ他ヲ云

若シクハ書載セ

シモノ若シクハ刷板セシモノニテモ自カラ  
知ラントヲ要シ或ヒハ總負ニ知ラシメン為  
メ之レヲ讀マントヲ乞ヒ或ヒハ議論中又ハ  
否カラズトモ自席ニ於テ之レヲ默讀セン  
トヲ願ヒ或ヒハ自己ノ説ヲ豫シメ用意  
セン為メ默讀セントアラハ議長へ願ヒ  
其許可ヲ得サレハ之レヲ讀ムト能ハザル  
ナリ

第十八節 缺則案ノ事

第百六章

舛ク考定シタル議案トイヘル議事會中律例  
ニ因テ之レヲ拒ムコトアル時ハ此議案ヲ強ヒ  
テ容レシメ為メ此律例ヲ壓却スルコトハ確乎々  
ル定例トナル故其律例ヲ壓却スルハ決テ舛  
ハサルナリ

但自然至當ノ建言ト議長之レヲ考定スレ  
ハ議長ノ命ニ依テ後會ノ時期之レヲ出ス

コトアルヘシ

第百七章

議事會ニ於テ凡ソ定ムル處ノ規條ノ一個條

中壓却ノ建言大半

譬ヘハ百人ノ負中三ノ負  
分ニ四分三ノ如シ

數ニ越ユル時ハ衆舛ク之レニ同意スルノ義  
ヲ主張シ格段ノ折リニハ一規則ヲ壓却スル  
ニ足レリトスル其時ハ議長規則中ケ條ノ他  
ニ代フヘキ建言ヲ取りテ之レヲ議セシムヘ  
キナリ

第十九節 議事序次ノ事

第百八章 總テ議事會ニ於テ事件ヲ議セント欲スレハ  
其前日議案ヲ調ベ會議ノ席ヲ癸ラケハ直ニ  
之レヲ議長ヘ相渡スヘシ

第百九章 凡ソ議案ノ出ルニ母ニ番號ヲ附與シ置其  
當日順序ヲ以テ議定スルニ能ハサルニア  
ル時ハ翌日ニ又順序ヲ以テ之レヲ議ス  
ベシ

第百十章 議事會ニ議案頗フル多ク隨ツテ日月ヲ

費スベキト判然タレハ豫メ議事ノ番號序次ヲ  
除キ急ナル事件ト延期トヲ區分シ延期ノ  
分ハ後會ニ附シ急ナル事務ヘ議長番號  
ヲ記シ其順序ヲ以テ之レヲ議スニ緊要  
ナリ

第百十章 一議案中數條ヲ載スルモノハ議長一タ  
ヒ全讀ノ上之レヲ書記ニ命シ再ヒ議案

ヲ取テ各條ヲ經讀セシメ終フル毎ニ聲  
ヲ絶キ若改正案ヲ發言スルモノアレハ  
議長其改正如何ノ方法ヲ問ヒ已ニ此  
方法ヲ以テ一讀シ終レバ決案ヲ發シ  
本案ノ取捨ヲ決ス若シ改正セシ所ア  
レハ改正ノ儘ニテ之レヲ取ルベキヤ否ヤ  
ヲ決ス

第百十二章

整調ニ附シタル議案ヲ議事會ニ復ス時モ

第百十四章

全案ヲ一讀ス書記官其改正箇條ヲ挙テ之  
レヲ讀ミ次ニ議長此箇條ニ付決案ヲ發シ  
テ其可否ヲ決シ次ニ又第二條ヲ讀マシメ  
又其可否ヲ決シ全ク改正各條ノ可否決ス  
ルマテ此ノ如クス盡ク改正各條ノ可否  
ヲ決スルマテハ其案ノ箇條ヲ一切改正ス  
ルヲ許サスサレバ已ニ斯ク改正箇條ノ可  
否ヲ決スレハ議長則チ聲ヲ絶チ議事會ニ本

案ノ改正案ヲ発スベキ時間ヲ與ヘテ事ヲ決  
議スベキナリ

第百十三章

一 議案ヲ整調ニ附シ此掛リニテ其條目ヲ改  
正シ別ニ新案トナシテ之レヲ議事會ニ復  
送スルニ當テ改正スル箇條甚々多クシテ  
格別緊要ノ事件ニアラザル時ハ直チニ新案  
ニ附スヘシ

第百十四章

甲 議員一議案ヲ發シ乙 議員之レヲ贊

成シ議長ノ布達ナケレハ未タ議事會ノ議案  
ト云フベカラス因テ議事會ニ於テ之レヲ議  
スベキ權ナシ故ニ誰レニテモ未タ布達ナキ  
間ニ起立シテ議案ヲ討論シ或ハ之レニ關涉  
スル議案ヲ發スル者アレバ即チ律例ヲ犯ス  
モノトナス

第百十五章

一 議員起立シ已ニ席ヲ占ムルモノハ其議ス  
ベキ議案ニ付專ラ發言スルヲ許スヲナレ

州藏  
バ其發言中ハ誰員ニテモ起立シテ延會案ヲ  
發シ又ハ課程案ヲ發シ又ハ何事ニテモ其類  
ノ特權案ヲ發シテ其發言ヲ停ムルヲ許サ  
ルナリ何トナレバ一議員已ニ發言スル間  
ハ他ヨリ議案ヲ發シ其席ヲ奪ヒ又ハ其發言  
ヲ停ムルヲ許サルヲ一般ノ規則トナスナ  
リ且何レノ議員ニテモ起立セスシテ案ヲ發  
シ又ハ課程案ヲ主張シ又ハ本案ノ事ニ付議

案ヲ發スルトモ議事會ノ法ニ於テ之ヲ議案  
ト看做サス何ントナレハ坐ヲモ起ス議長ニ  
モ申達セス從テ議長ヨリ其員ノ名ヲ呼バサ  
ルキハ議案トナスヲ許サルヲ規則トナ  
スナリ

第百十六章

縱令實際ニ於テハ行フベカラザルヲアリト  
モ先ツ一般ノ道理ニ於テハ議事會ノ討論ト  
訟廳ノ爭論トハ大ニ徑庭アルヲニテ議事會

ニ於テハ同仲間ノ銘々ニ其論ヲ發スルニ止  
リテ甲ノ議員ノ議論ヲ乙ノ議員ヨリ直ニ甲  
ニ對シ之ヲ問返スベキ權利ナキモノナリ只  
議長議案ヲ受ケ之ヲ布達シ又對論ヲ受ケテ  
之ヲ達スルヲ法トス

但時トシテハ本案ヲ發スル議員ニ特典ヲ  
與ヘ盡ク討論ヲ終ヘシ後其議案ヲ不可シ  
タル議員ニ對シ別段ニ議論ヲナサシムル

トアリサレハ是レハ唯此議會ノ特典ニシ  
テ此議員ニ必ス此ノ如キナスベキ權アル  
ニハアラザルナリ

### 第二十節 發言ノ方法

### 第百十七章

議事會ニライテ議員事ヲ議スルハ總テ發言セン

議案ヲ發スル  
トキト同様ト欲スルモノハ起立シテ議長ニ對シ發言

セント欲スルヲ告グベシ議事會又ハ其一員ニ告  
クベカラス右議員ヨリ議長ニ斯クト告クルハ議



長ハ其姓名ヲ呼ヒテ議事會ヲシテ發言スルモノ、  
誰某トシテ知ラシメ各員ヲメ之レニ注意セシムルナリ  
サレバ若同時ニ發言セント欲スルモノ數員アリテ何  
レカ其席ヲ占ムベキヤ決セザルコトアレバ着席ノ順序  
ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第百十八章

甲議員一議案ヲ發シ乙員之ヲ賛成シ議長之  
レヲ議事會ニ布達セシ後若甲議員猶發言セントテ  
起立セバ議長ハ他員ヲ閣オキ甲議員ヲシテ席

ヲ占メシムルコト通例ナリ

第百十九章

若シ延會案ヲ發シタル議員アル寸ハ議長ノ意ニ  
任カセ他ノ議員ヲ閣ヲキ此延會案ヲ發シタル議員  
ヲシテ席ヲ占メシムルナリ若シ席ヲ占ムベキモノ二員  
アルハ二員ノ中本案ノ旨趣ヲ拒ムモノヲシテ  
先之レヲ占メシムルナリ總テ議長ハ議員ニ席ヲ與  
フルノ權アリトスベシ

第百二十章

甲議員已ニ席ヲ占メシ後乙議員ノ請求ニ任

第百二十章  
 第百十六章  
 カセ發言ヲ止メ其席ヲ讓テ乙ヲシテ其議論ヲ發  
 言セシムル寸乙員已ニ其發言ヲ卒ヘハ甲員ハ固  
 ヨリ其席ニ復スベキ權アリ唯乙員ノ議論ヲ發  
 セシメシメ為ニ相對ニテ其席ヲ讓リシ譯ニテ  
 議長ノ聞届ケシ上ハ議事會ヲシテ從ハシムベシ  
 發言スルモノ或ハ議員ヲ指シテ言フ寸ニ其姓  
 名ヲ呼ブコトハ嚴禁ナリ由テ或ハ其席ヲ指シ  
 テ彼ノ何番ノ席ヨリ出ル論ト云ヒ或ヒハ只今

發言ノ論ト云ヒ或ヒハ此議案ヲ可トスル論  
 ト云ヒ或ヒハ否トスル論トイヒテ總テ差附  
 テ其姓名ヲ呼バズ何レナリトモ右ノ如キ語  
 ヲ以テ其人ヲ指スベキナリ其譯ハ總テ姓名  
 ヲ呼テ其人ヲ指ス寸ハ其同黨ニテモ其反黨  
 ニテモ呼フモノト呼バル、モノトヲシテ自  
 然愛憎ノ私心ヲ生セシメ易スキモノナリ故  
 ニ今此規則ヲ設ク其人ヲ指サズシテ其席ヲ

指シ其席ヲ指サズシテ其論ヲ指ス様ニスレ  
バ私情ト公務ト全ク分カレ各員唯公務  
ヲノミ專一トスル一助トモナルベキナ  
リ  
第百二十三章  
總テ發言中ハ誰員ニテモ起立シ終テ後其  
坐ニ復スベシ但若シ老衰疾病不具等ノモ  
ノニテ已ムトヲ得ザル寸ハ其席ニ坐シテ  
發言スルヲ許ス

第二十一節 發言ノ主意  
第百二十三章  
總テ議事會ニテ發スル議案ハ元之レヲ討論  
スベキ為メナレバ其主意中ノ事ハ誰員ニテ  
モ之レヲ討論シ得ルナリサレバ其主意外ノ  
論ヲ發スル者間々之アルトナルニ由リ一般ノ  
規則ヲ設ケテ總テ一議案ニ付發言スルモノ  
ハ唯其主意中ノ事ヲノミ論ズベシ其外ヲ論  
スルヲ許サズト定ムルナリ

第百三十四章

總テ發言スルモノハ議事會ノ事務ニ付無禮  
誹謗ヲ為シ又已ニ議事會ニヲイテ決議スヘ  
キ事務ニ付別ニ處分方法ノ議案ヲ發スベキ  
定論ヲモ有セズレテ謾ニ此議ヲ棄捐スベキ  
議論ヲ發スル等ハ一切嚴禁タリ  
發言スルモノハ其主意ノ議論ヲ後ニシ他ノ  
一議員ト爭論シ無禮ナル語ヲ發シ又ハ事ニ  
托シテ之ヲ誹謗スル等ハ一切嚴禁タリ議案

第百三十五章

ノ弊ヲ舉ケ之ヲ討論スルハ固ヨリ之レ  
アルトイヘトモ此議案ヲ可トスル議員ヲ  
私論ナリト呼ヒ之レヲ罵詈スルハ  
全ク一箇ノ私心ニ関ルナレバ之レヲ紀  
律ヲ犯スモノトナス

第百三十六章

一議員ノ發言スル議案ノ主意ニ當レ  
リヤ否ヲ判断スルハ容易ナラザルナ  
リ然レモ先一般ニ他ノ議員ノ心実ヲ

誹り又ハ議事會ノ事務ヲ誹り又ハ全ク  
本旨ヲ誤解シ他事ヲ論ズルモノニ非ガ  
レバ議長ハ之レヲ本旨ニ協フモノト認  
メテ可ナリ

第百二十七章

一議案ヲ議スル寸本案ハ全ク變ゼザレハ  
其枝案ハ頻リニ變スルコトアリ譬ヘハ本  
案ハ數種ノ決議取捨ノ決案ナルニ枝案  
ハ第一ニ改正案第二ニ延會案ト變ハルコト

アリカ、ル寸ハ總テ本案ヲハ暫ラク之レヲ  
置キ先枝案ヲ議スベシ但一枝案ニ付發言ス  
ルモノハ其主意ノ外ヲ論セザル様注意スベ  
シ嚴ニ此規則ヲ行フコト固ヨリ議長ノ專務  
タルベシ

第二十二節 發言ノ度数

第百二十六章

總テ議事會ニ於テハ別段ニ度数ヲ定メザル寸ハ  
一議案ニ付一度發言セシモノハ縱令延會トナリ

第百二十九章

テ此議案ノ數日決セザルトキ又ハ右議員未タ  
決セザル間ニ其説ヲ變スル寸モ決シテ再度發  
言スルコトヲ許サズルコトヲ以テ一般ノ規則トナスナリ  
一議案ニ一發言ノ法ヲ定ムルト雖モ一議案ノ初  
テ出テシ寸發言シタル議案ヲ再ヒ修正或ハ取  
調ラベシ後再ヒ之レニ付發言スルコトハ禁ゼザル  
ナリ(一議案云々ハ譬へハ一事件ニ關係シタル  
事ニ附キ既ニ一議案ヲ發シ又其主意ヲ變換

第百三十章

レテ斯ノ如クナルモヨシ杯其趣意ヲ兩端ニシ  
テ定案トナラザルヲ云フ)他ノ事務ニ付論ズル  
寸ハ別議案ト看做スナリ此理ニ由テ己ニ本  
案ニ付發言セシモノニテモ其枝案ニ付發言  
スルコトハ禁スル所コニアラズ  
前章ノ規則ヲ以テ一議案ニ再度發言スルコ  
トヲ制スレバ一議員ノ再三發言スル憂ナカル  
ベシ併若強テ再タヒ發言ヲ欲スル者アレバ

其發言ノ主意ヲ議長ニ説明シ議長前言ヨリ  
モ其説ヲ可トスル時ハ議長其由ヲ議事會へ  
告ケ然ル後之ヲ發言スルヲモアルハ尤前  
案ハ棄捐セララル、者ト認ムルナリ

第百三十一章

己ニ發言セシ者ト雖モ其議論ノ旨趣ヲ貫徹  
スル為メ又ハ其議論ノ大眼目ヲ説明スル為メ  
又ハ議事會ノ紀律ニ協ハザルヲ等ヲ論スル  
為メニハ再タビ發言スルコトヲ許スナリ

但シ何レノ為ニ再タビ發言スルト雖モ其  
前ニ發言シタル意ヲ貫徹スル為ニ故ニ議  
案ヲ改ムベカラス尤他員ノ發言中ナラハ  
必ス其終ルヲ待ツベシ

第百三十二章

或ハ前章ノ意ヲ議事會ニ於テ誤解シ己ニ再タビ  
發言シテ其旨趣ヲ説明スベキ權アレハ他員  
ノ發言中ニモ之ヲ止メテ再ヒ發言シ其旨趣  
ヲ説明スベキ權アリト思フモアレトモ總テ

説明ノ為再言スルトモ他員ノ發言中ナラバ必ズ  
其終ルヲ待ベシ若發言スル者自ラ其席ヲ讓  
リテ他員ヲシテ説明ノ為メ再ヒ發言セシム  
レハ再ヒ其席ニ復スルヲ許サズ

第百三十三章

一 議案ニ附キ各員ノ發言ノ時間ヲ議長ヨリ  
豫定シ其期ニ至レバ議長期ノ満ルヲ告ゲ發  
言スル者其坐ニ復ス但此法ハ討論ヲ停止ス  
ルヨリハ之レヲ短縮スル為メニ設ケタルナ

リ

第二十三節 討論ノ紀律ノ事

第百三十四章

総テ議事會ニ列スル議員ハ其發言中ハ他員ヲ  
シテ黙聴セシムヘキ權利ヲ有スルモノナレ  
ハ総テ議員タルモノハ一議員ノ發言中ハ必  
整肅端正以テ其發言ヲシテ満場ニ洞達セシ  
ムベキナリ且テ一員ノ發言中叱咤咳嗽吐  
唾私語等ヲナシ或ハ議長ノ席ト發言スル議



負ノ席トノ間ヲ遮過シ或ハ議場ヲ往返散步  
シ其他無禮ノ行儀ヲナシ發言ヲ妨害スル  
ハ一切嚴禁ナリ

第百三十五章

係シ若シ一議員ノ發言中縱令ヒ規則ニ於テ  
ハ之ヲ許サズト雖モ右議論迂遠ニ屬スル  
アレハ議員ハ議長ヲ呼ビ掛ケ(無用)ノ声ヲ發  
スルヲ得ヘシ議長ハ其聲ヲ聞ケハ直チニ彼ノ  
議論ヲ止メ無用ニ屬スルヤ否ヤヲ議員ハ達ス

8

第百三十六章

ヘシ無用ニ決スレハ其議ハ議長ヨリ之レヲ  
止ムヘシ  
不紀律ノ事起リ發言ヲ攪擾スル企テ判然  
タラハ議長ノ職令トシテ議事會ヲ一喝シ紀  
律ヲ整肅スヘシ若シ屢令ヲ下シテ紀律ヲ整  
肅スルトイヘ氏猶之レニ從ハザルモノアラ  
ハ議長ハ直チニ其者ノ姓名ヲ呼グベシ已ニ斯  
ク姓名ヲ呼バル、者ハ議事會ヨリ退院ヲ命ズベ

シ又退院ヲ否ナシ或ハ其他議員等モ議事會  
ヲ壓抑スル等ノ企判然タラハ議長ハ閉會  
ノ布達ヲナシ退場スヘシ

第三百十七章

議長ハ退場セシ上其次第ヲ正院へ上言シ至  
當ノ罰ヲ加フヘシ

第三百十八章

發言スル議員若シ不法ノ言語ヲ以テ他ノ一  
議員若シクハ總會ヲ刺誹スル寸ハ誹謗ヲ受  
ケタルモノニテ他ノ議員ニテモ之レヲ

不法ノ事トナシ議事會ニ訟フヘキト思ハ  
シ左ノ手續ヲ以テ之レヲ訟フヘシ

第三百十九章

若シ甲ノ議員前條ノ所為ヲナサハ乙ノ議員  
一人若クハ數人起立シテ甲ノ議員ニ向ヒ其  
不法ヲ責ムヘシ此ノ時議長乙ノ議員ノ名ヲ  
呼ビ甲ノ議員ノ發言中何レノ語ヲ不法ト唱  
フルカラ問ヒ乙ヲシテ再三明瞭ニ其語ヲ反  
復セシメ書記官ヲシテ之レヲ簿冊ニ登記セ

シムルナリ併シ若議長ヨリ乙ノ議員ノ名ヲ  
呼フヲナケレハ乙ハ直チニ口上ニテモ又ハ  
書付ニテモ不法ト思ヘル語ヲ書記官ニ告ケ  
之ヲシテ簿冊ニ登記セシムルヲ請フコトヲ  
許サス因テ乙ヨリ斯クト請ヘハ議長ハ書記  
官ニ命シテ之レヲ簿冊ニ登記セシムヘシ併  
シ議長ノ説ニテ右不法ノ語ヲ此々タルコトニテ  
斯クマテ之レヲ讓ムルニ足ラサルコト思ハ

九  
九

第四百十章

能ク其場合ヲ見計ラヒ議事會ノ手續ノ障  
碍セザル様成ル丈書記官ニ右ノ命ヲ下スコ  
ト猶豫スヘシ併シ右ノ語ヲ自ラ不敬ト思ヒ  
又登記スヘシト呼フモノ多ク且満場皆之レ  
ニ左祖スヘキ姿勢判然タレハ議長ハ速ニ書  
記官ニ令シ乙ノ議員ノ告状ニ從ヒ之レヲ簿  
冊ニ登記セシムヘシ

己ニ右ノ如ク不法ノ語ヲ書記官ノ簿冊ノ畧

記ニ登記セハ之ヲ朗讀シテ發言セシ議員ヲ  
シテ之レヲ熟聞セシム此ノ如ク議員其發  
言中カ、ル語ヲ吐キレトナント拒マハ之レ  
ヲ議事會ニ下シテ果シテ然ルヤ否ヤヲ決セ  
シムヘシ

但此時右ノ語ヲ余テ此語ハ實ナルニ彼語  
ハ然ラズト云ヒ分クルヲ許ス

第四百十一章

右議員自ラ之ヲ實正ナリト訟フルト雖トモ猶

第四百三章

或ヒハ其語ヲ不法ニ涉ラサルモノトシテ論  
駁シ或ハ他人ヲ辱カレメン為メカ、ル語ヲ  
發セシニアラス若此々ノ意味ニテ之レヲ  
用ヒレナリトテ其所以ヲ辨解スルヲ許ス  
若右ノ論駁若シクハ辨解若クハ陳謝ヲ聞キ  
議事會ニテ之レヲ満足ト思フ寸ハ別ニ手續  
ヲ要セス且ツ別ニ議案ヲ發スル者ナケレハ  
右議員ヲレテ再ヒ發言セシムベシ併シ十員

第百四十三章

以上右議員ノ發セシ語ニ付議事會ノ決議ヲ  
取ルコトヲ至當ト云フ寸此語ヲ發セシ議員ノ  
無禮ナルコト若シ已ニ判然タラハホタ此議案  
ノ發セサルニ及シテ之レヲシテ其席ヲ去ラ  
シムヘシ右議員已ニ其席ヲ去テ而シテ後議事  
會右ノ語ヲ討論シ規則ニ從テ之ヲ處分スベシ  
甲議員其發言中不法ノ語ヲ發セリトイヘル  
其發言ヲ終フルマテ之レヲ訟フルモノナク

第百四十四章

或ヒハ已ニ乙ノ議員之レニ次イテ發言ヲ初  
メ或ヒハ已ニ議事會ニテ他ノ事務ヲ議スル  
ニ至リ其場合ヲ過キシ寸甲ノ不法ヲ訟フル  
モノアリトモ一切之レヲ許サレルナリ斯ク  
規則ヲ定ムレハ一ニハ總議員ノ危疑ヲ絶チ  
一ニハ不法ノ語ヲ直チニ書記セサルカ誤謬  
ヲ醸スノ弊ヲ防セクヘシ

總ヘテ議事會ニ於テ討論ノ爲メ一案ヲ出ス

寸ハ之レヲ議案ト名ツケ其取捨ヲ決センカ  
爲メ之ヲ出ス寸ハ之ヲ決案ト名ケ議定セシ  
モノヲ決議案ト名ツクルナリ

第四百十五章

議長ハ決案ヲ發シ之レヲ反復シテ不同意ナ  
キヤヲ發聲シ依テ可トスルモノハ同意ト答  
フル證トシテ右手ヲ舉クヘシ又否ト思フモ  
ノハ不同意ノ證トシテ左手ヲ舉クベシ此時  
議長ハ可答否答ノ多寡ヲ判断シ可決否決ヲ

確定スベシ

第四百十六章

併シ議長ノ決算ヲ徑シ後議案ヲ發スルモノ  
アリトモ又ハ決案ヲ發セシキ議事會ニ在ラ  
ズシテ其後ヲ来リシモノトモ此兩事ハ已ニ  
期ニ後ル、モノナレハ議事ノ決算ヲ發シ更

ニ議事會ヲ兩分スル等ハ之ヲ許サ、ルナリ

第四百十七章

可否同数ナル片ハ其議ヲ決スルハ議長ノ決  
ニ任スベシ



